



平成28年11月20日
飯田 恭次
用賀まちづくりセンター

号者局
79 貴務
行
第 発 事

昭和39年東京オリンピック

以後の今

そして未来！

上野 賢四郎 金子倉一
昭和39年の東京オリンピックの時は、電化製品が驚異的な発展をし、特に競技を楽しむ為にテレビが一般家庭に普及したのを記憶しています。街頭ではカラーテレビの生中継でプロレスやボクシングが放映され、皆が大いに盛り上っていました。

52年後の今は、スマホと医療が大変な進化を遂げ、人々の生活も大きく変化しています。

そして未来は？の空想ですが、各家庭にヘリコプターの様な自家用機が備えられ、空からの景色を察し、速さと便利さを享受出来るかも...。又、生活では野菜は農機を使わずLEDの力で全天候型の施設を利用、何時でも必要なだけ手に入れる事ができたり、人も歩くのは家の中だけで外出は玄関からエレベーターに向ってスマホで行き先を選択、岡物は自分のコンピュータに空から配達して貰うなど、尽さない夢物語をするのも楽しいものです。

(上野賢四郎会長)

変わりゆく五雷通りの様子

上野 賢四郎 飯田 恭次

18年前、用賀の道路が一条から十条通りと名称がつき、更にグランドと走っていた五雷専用軌道が舗装され現在新道として車が通行しています。そして桜新町へと続く用賀神社隣の坂道の道幅が少しずつ拡張され、都道として5年前より相互通行となり、多くの車が行き交っています。

4年後のオリンピックを機会にこの道路の名称を皆様と共に考え、10年先のビジョンとしては、電線の地中化とバス路線延長を検討。この様に道路に沿って用賀の町が益々発展、変化していくことを期待しています。



(用賀町会長)

私たちのまち10年後

小学校が隣接する町・瀬田

瀬田 幸吉 吉岡 光章

わが町瀬田には、小、中学校が区道をはさんで隣接して建っています。

瀬田中昭和23年、瀬田小29年に開校しています。

現在に至るまで、地域と学校はとても良好な関係を築き続けてきました。

毎年町会主催の運動会が小中学校で開かれ、中学生にはお手伝いと部活対抗リレーに参加してもらっています。

又、地域の防災訓練は毎年交互に、小、中学校で行います。

数年前の卒業生の言葉が心に残ります。『僕はこの瀬田の町が大好きです。だから大きくなったら瀬田の町でパン屋さんになりたいです。』...。(瀬田町副会長)

集いの場 区民センター

上野 賢四郎 田辺 忠治郎

四月より玉川台区民センター運営協議会会長に就任致しました田辺と申します。どうぞよろしくお願い致します。

私は区民センターのすぐそばに住んでいながら、区民センターがどのような利用されているのか知りませんでした。

運営協議会に入り、さまざまな方が利用されているのを見て、大変驚いています。

玉川台区民センターは、昭和四十八年に、世田谷区では二番目の区民センターとして誕生したそうです。

これから地域の方々のご利用を万願致します。

(用賀町副会長)

みちのコミュニケーション

上野 賢四郎 橋 たか

二子玉川駅の周辺は、住む人だけでなく遊びに来る人も、とても増えました。

その結果、歩道には歩行者、自転車、ベビーカーやシルバーカーが混在して、十年後にはもっと使いづらくなってしまうかもしれません。

そこで、協議会では『みちのコミュニケーション』を呼びかけています。

道路でコミュニケーションを取りながら、お互いを気遣って道を使うことで、十年後もみんなが使いやすい道路にして行きたいものです。

(二子玉川地区交通環境浄化推進協議会事務局)

木洩れ日

飯田 恭次

枯れ葉舞う晩秋、平成二十八年も残すところ一月余り、今年はオリンピッククイマリーに加えて、度重なる自然災害、都知事選、米大統領選挙等のニュースが続いた為、殊の外、一年が速く過ぎて行く様に思っています。

毎年八月初旬、上野賢の馬事公苑で開催されてきた『せたがや区民まつり』も本年で一区切り、同公苑は四年後の東京オリンピック馬術競技会場としての改修工事に入ります。

これから四年間、マンモス都市東京はオリンピックパラリンピックに向けて施設整備、都市改造が急ピッチに行われます。

少し古い世代にとっては前回、昭和三十九年十月間催東京オリンピック当時の記憶が懐かしく甦ります。



今、私たちの生活を取り巻く環境は保育園不足と高齢者介護施設の建設、家族化と少子高齢者時代の象徴でしょうか。かつて、日本全体が大家族時代...。追えば立て立てば歩めの親心、留守番役のお年寄り茶の間や縁側で孫の子守りと云う情景があらにありました。



ここ数年来、百歳以上の超高齢者が年毎に増え、戦後世代が後期高齢者に仲間入りする二〇二五年の足音も近付いて来ました。



郷土紹介

大山道のあしあと(十三)

平田良孝

今回は若者の人気スポーツ「ニコタマ」と大山道の移り変りを辿ってみます。

大正十年秋、この三子玉川一帯で陸軍の大演習が行われました。次いで大正十三年九月一日、関東大震災が起り市中より避難して来た人々が三子の渡し場て列をなしたとの事。そして、

、手近な錫光地になりまし
た。当初の駅名は玉川電車
が玉川、大井野線は二子玉

川でした。その後、一時ふみうり遊園等の駅名に変わった時期もありましたが、昭和十九年「二子玉川」に統一され、戦後、昭和二十九年、遊園地の再開に伴い「二子玉川園」と変り、今、二子玉川に戻っています。

又、明治四十年以来、大山道沿いの人々に親しまれて来たタマ電は車社会へ進む中でジャマ電となり昭和四十四年五月廃線、八年後の昭和五十二年、新玉川線の昭として生まれ変りました。

その後、新玉川線は田園都市線、半蔵門線、東武線と相互乗入れし直通運転となつて「二子玉川」は沿線有数の乗降客が利用する主要駅になっています。



ふるさとワタシ
源田三吉 染野征子
私の故郷は五年前にあの
原発事故で全世界に有名に
なった「フクシマ」です。
原発事故のダメージは余り
にも大きく福島県が崩壊す
るのではと心配でした。
浜通り地方は、この
先も終りの無い放射能
汚染と戦って行く事に
なるでしょう。
私の生れ育った所は、
中通り地方阿武隈高地の
の山間地にある人口約一万
六千人程の石川町です。幸
いな事に原発の影響は、ほ
んど無かった様です。
二つの川に沿って市街地
が出来てます。北方面より
北碓川、東方面から今出川
町の中央で合流し一つの川
となって阿武隈川へ注ぎま

わが故郷

春になると狭い川の兩岸は、町のシンボルである桜が満開となり、川沿いの街並は桜色一色に染まり、それはそれは見事な景観です。秋には、周りの山々一面が、赤や黄色に色彩られ、庭先にはすっかり葉が落ち、まっ赤に熟した柿の実が枝がしなる程実をつけている光景が浮かんで来ます。

(日赤用賀分國長)

スポーツ

募金運動
地域支え合い

17月11日(金) 5 12月11日(日)

来年一月かゝ東京オリンピック
ツク競技大会に向けた改修
工事が始まる前に、緑豊かな
広大な敷地の中で馬と相
れ合うことができる馬事公
苑へ行ってみたいよう。

災の用心

電氣による火災が増加して
います。電氣ストーブのそ
ばに燃えやすい物を置かな
いなど、お飯の中をきつく
しましなう。

古着・古布の回収

11月12日(土)京セラ駐
場と天神公園で実施しまし
た。

ご協力ありがとうございました。



40年程前、用賀は越して来た當時は未だ農地が多くありました。学校と病院が近く、馬車公苑、祐公園の遊び場が整えられ、子育て環境には文句のつけ様の無い文化の薫り高い土地柄です。

子どもが通う用賀小学校では春に運動会が行われ子供達はそれぞれ腕技に一人となり立ち向かう。そして短かい間に良い友達も出来ました。他区に比べ出生率も高いと聞きますが、農地や空地だった所にはテニスが建ち、年寄りにも優しい町です。

まちの変化を映し出した
から、年3回発行してきた
このひきは、今号で99号に
なりました。(千野)

（千野）